

氏名(本籍)	おのまさひこ 小野昌彦(茨城県)		
学位の種類	博士(障害科学)		
学位記番号	博乙第2383号		
学位授与年月日	平成20年5月31日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	不登校に対する行動療法の立場からの包括的支援アプローチの構築		
主査	筑波大学教授	博士(教育学)	園山繁樹
副査	筑波大学教授	博士(心身障害学)	前川久男
副査	筑波大学准教授	博士(教育学)	野呂文行
副査	筑波大学教授	医学博士	宮本信也

## 論文の内容の要旨

### (目的)

わが国において、不登校問題は大きな社会問題となっており、顕著な減少傾向は見られない。本研究では、不登校の児童生徒に対する行動療法の立場からの再登校支援について、従来の方法の問題点を克服し、より多面的で包括的なアセスメント法とそれに基づく包括的な支援アプローチを開発し、その効果を検討するとともに、従来とは異なる新しいタイプの事例にも適用可能な包括的支援アプローチを構築することを目的とする。

### (対象と方法)

症状や状況等が異なる49名の不登校児童生徒を対象とし、行動的アセスメントに基づく再登校支援を実施する臨床的な事例研究法を用いた。従来のアプローチに含まれない新しいタイプを4つに区分し、それぞれの典型事例計13事例について詳細な提示を行い、新たな方法の有効性の検討を各事例について行った。

### (結果)

49事例中48事例で再登校が可能となった。4つのタイプに分けられた典型事例13例について、新たに必要となった方法はそれぞれ、各事例において必要かつ有効なものであったことが示された。また、従来なされていなかった再登校後に登校が維持されるための計画的支援についても、有効性が示された。さらに、教育委員会と連携し、特に新しい支援アプローチとして行った一つの町の全小中学校を対象にした支援では、その町の不登校児童生徒が支援2年目にはゼロになるなど、顕著な効果が見られた。

### (考察)

従来の行動アセスメントを家庭・学校・地域に拡大し、多様な情報を収集し統合したことが有効であり、再登校についての包括的支援アプローチの有効性も示された。特に、事例ごとに技法選択する際に必要となるアセスメント情報を明確にできた。最後に、本研究での課題を踏まえ、より有効性を高めるための枠組みと手続きを公式化した。長期の追跡研究やより新しいタイプへの適用等が今後の課題である。

## 審査の結果の要旨

本論文ではまず、不登校に対する行動療法の立場からの従来の積極的アプローチの問題点が的確に指摘された。これは現代における不登校の多様性に関連した問題として指摘されている。次いで、その問題点を克服するより広範で精緻なアセスメント法、初期対応の在り方、他機関との連携方法、タイプ別の支援方法、学校全体・町全体への支援プログラムが提案され、実施された。その結果1名を除く48名の不登校児童生徒の再登校が可能となり、きわめて高い再登校率が示された。また対象とした町の小中学校すべてにおいて不登校児童生徒がゼロになるなど、本アプローチの効果が明らかにされている。これらの成果は、本論文で提示された包括的支援アプローチが、症状や状況がますます多様化する不登校児童生徒の支援に大きな寄与をなしうる可能性を示唆している。今後さらに、行動理論に基づくより精緻な理論的説明が期待されるが、本論文で示されたアプローチは、現在わが国で大きな社会問題となっている不登校支援における包括的かつ精密で、適用範囲の広い方法論として大きな価値があると考えられる。

よって、著者は博士（障害科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。